

肥満とがん罹患リスクとの関連

Obesity and Risk of Cancer in Japan

2005年 International Journal of Cancer 発表

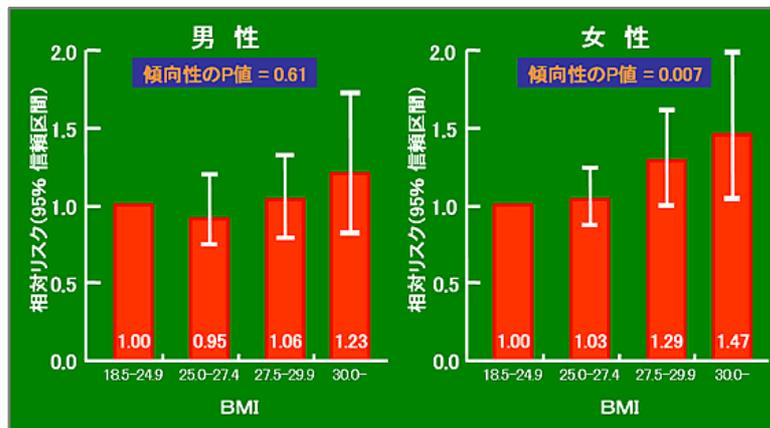
女性で肥満とがん罹患リスクの上昇が関連する

肥満とがん罹患リスクとの関連に関する研究結果は主に欧米から報告されてきましたが、日本を含むアジアからのデータはほとんどありませんでした。

そこで私たちは三府県コホートのデータを解析して、肥満とがん罹患リスクとの関連を検討しました。自己回答の身長、体重から Body Mass Index (BMI = 身長(m) / 体重(kg)²) を算出し、対象者を4つのグループに分け (BMI 18.5-24.9、BMI 25.0-27.4、BMI 27.5-29.9、BMI ≥30.0)、標準体重の群 (BMI 18.5-24.9) を基準とした他の群のがん罹患リスクを算出しました。

その結果、男性では有意な関連はみられず、女性では、肥満になるほどがん罹患リスクが上昇していました(図)。また、個別のがんでは、女性で肥満と大腸がん、乳がん(閉経後)、子宮体がん、胆のうがんで有意なリスクの上昇がみられています。

肥満と全がん罹患リスク



こうしたデータから、肥満が女性のがん罹患のうちどれくらいの寄与をしているかを算出したところ、4.5%と計算されました。これは欧米からの報告、3.2%-8.8%の範囲内にあり、欧米と比較すると日本では肥満の有病率は少なく、その影響が少ないと思われるがちでしたが、がん罹患に関しては、女性で肥満の影響は欧米と変わらないことが明らかになりました。

研究データについて

ベースライン調査：解析には、宮城県内のコホート研究のデータが使われました。三府県コホートと呼ばれているもので1984年1月に、宮城県内の3町村在住の40歳以上の男女約3万3千人を対象に、生活習慣や健康状態などに関する自己記入式アンケートを配布し、3万1345人から有効回答を得ました。回答率は94%でした。追跡調査：ベースライン調査に答えていただいた方のうち、1984年1月1日から1992年12月31日まで9年間追跡調査を実施しました。

その上で、がんの既往歴のある方、今回の研究に関連する質問への回答に不備のあった方を分析の対象から外しました。その結果、2万7539人(男性1万2485人、女性1万5054人)が調査の対象になり、うち追跡期間中に1672人(男性1004人、女性668人)ががんと診断されました。

他のリスク要因の影響について

この研究では、がん罹患に関連すると考えられている、BMI以外の関連要因の影響を考慮して結果を算出しています。具体的には、年齢、喫煙、飲酒、肉・魚・果物・緑黄色野菜・味噌汁の摂取、加入健康保険の種類、女性では、生理の有無、初潮年齢、初回出産年齢について、グループ間に偏りがないように、統計学的な処理を行いました。

他のリスク要因の影響について

この研究では、がん罹患に関連すると考えられている、BMI 以外の関連要因の影響を考慮して結果を算出しています。具体的には、年齢、喫煙、飲酒、肉・魚・果物・緑黄色野菜・味噌汁の摂取、加入健康保険の種類、女性では、生理の有無、初潮年齢、初回出産年齢について、グループ間に偏りがないように、統計学的な処理を行いました。

研究の特徴と限界について

肥満とがん罹患に関する研究結果は欧米から比較的多く報告されていますが、日本人のデータはほとんどありませんでした。この研究の特徴は、日本人における肥満ががん罹患リスクに与える影響を明らかにした点です。ただし、この研究では、身長、体重が自己回答でありますので、肥満の判定が幾分正確ではないかもしれません。しかしながら、肥満の方は体重を過少に申告する傾向があることがわかっていますので、実測データによるより正確な肥満判定を行えば、肥満とがん罹患リスクとの関連はより強くなることが予想されます。
